

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立京都八幡高等学校（北） 】

|               |  |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ       | 【 III 】  |
| 2 実施対象者       | 本校のレスリング部員 1名<br>地域の中学生 4名<br>地域のダウン症者 7名  |
| 3 展開の形式       | (1) 学校における活動<br>① 教科名 ( )<br>② 行事名 ( )<br>③ その他 ( )<br>(2) 地域における活動<br>① イベント名 ( ワクワクレスリング教室 )<br>② その他 ( 障害者レスリング大会参加予定 2月)   |
| 4 目標<br>(ねらい) | ・ 障害者の自立・社会性を目指す＝ダウン症児者と親、他人との肌の触れ合いによる密接な絆、交流を強め、心身の発達を目指す  |
| 5 取組内容        | ① アップ運動<br>・ 二人組になり、様々な運動を行う。体を温め怪我を防ぐこと、体力を向上させることを目的とする。<br><br>② 打ち込み<br>・ 二人組になりタックル練習を行う。ダウン症の生徒と高校生・地域の中学生がペアになる。ダウン症の生徒同士で組むときには、必ずその組に指導者・スタッフが横に付き、危険な状況を回避するよう努める。<br>・ 構えやタックルの技術指導を行う。理解できるまで繰り返し指導を行い、上手くできたときにはハイタッチ等で喜びを共有する。<br><br>③ 練習試合<br>・ 2チームに分かれマット一面を使用し、高校生も入り練習試合を行う。試合前にはチームごとに円陣を行い、気合いを入れる。試合中、待っている人は自分のチームの応援を行う。<br>※審判もつけ、怪我をしないよう危険な状況があれば早めに止める。<br><br>④ トレーニング<br>体力づくりでトレーニングを実施する。 |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
|                             | <p>【練習の風景】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>• 実戦練習</span> <span>• トレーニング（腹筋）</span> </p> |
| <p>6 主な成果</p>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10年以上、月1回の練習を継続して行なっているため、仲間意識が高く強い絆で繋がっている。ダウン症の生徒や保護者が高校生や卒業生の試合に応援に来てくれることがあった。</li> <li>• レスリングを通じて交流を深め、個々の良さを認め合うことができた。ダウン症の生徒の一人一人のペースを把握し、個々に合った指導や声かけを行なうことができていた。</li> <li>• 中高生は優しいだけでなく、危険なことやルールで違反となることはダウン症の生徒が理解するまで何度も繰り返し注意し、安全に競技を行なうことへの意識が高まっていた。</li> </ul>   |
| <p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 練習を重ねていく中で、高校生がダウン症の生徒に指導を行なうようにしている。</li> <li>• グループやペアで練習を行い、個別に指導を行う。また、相手を替えながら多くの選手と行うことで、その生徒の性格やレスリングのスタイルなど個性を理解させる。</li> </ul>  |
| <p>8 主な課題等</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>• レスリング競技という中での交流のため、レスリング部員以外の生徒が参加をしにくい。また、知識が無いと怪我等の事故が起こるリスクが高くなる。</li> <li>• ダウン症の生徒の多くは高校生より年上である。高校生の言葉のかけ方を注意していく必要がある。お互いの存在に感謝していけるような関係を築いていくことが大切である。</li> <li>• 年々、ダウン症の生徒が減ってきている。原因としては、初年度から年齢層が高く、活動が困難となり引退する生徒が多くなってきた。また、ほとんどの生徒が何年も継続している生徒にで、新規でクラブチームに入ってくる生徒が少ない。</li> </ul>                         |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 後も課題点を改善し、長期にわたり継続していきたいと考える。</li> </ul>   |